
一般社団法人レジリエンス協会 メールマガジン

2013.2.21 (第4号)

【目次】

1. 定例会内容ダイジェスト報告 (2013.2.4 開催分)
2. 次回定例会開催のご案内
3. 会員募集のご案内

【1. 定例会内容ダイジェスト報告】

日時：2013年2月4日(月) 13:30～17:00

場所：京都大学 東京オフィス

参加者数：37名(講演者を含む)

(1) 「ISO22320：緊急事態管理」－ 黄野 吉博氏 (レジリエンス協会；代表理事)

- ISO22300、22301、22320 に対する、世界各国の国内適用状況 (採用、検討中、不採用)。
- レジリエンス協会は、日本規格協会と連携して共同で、当面 ISO22320、22322、22324、22398 の4つの普及・教育活動を推進する。
- また、これと並行してサプライチェーン・セキュリティに関する規格 28000 シリーズの普及活動も同様に推進する。

→ 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

- ・ ISO22300、22301、22320 の採用状況は採用 12～14 か国、検討中が 16～18 か国、不採用が 2 か国というのが現状である。
- ・ 日本では、22301 の人気が高いが、22320 が地方自治体やインフラ企業に適した規格であり、これを普及させていく必要がある。
- ・ ISO に対する欧州と日本のスタンスが異なる。欧州では ISO の要求事項をガイドライン的に見る。したがって、認証を取るかどうかは別にして、各社がそれらの要求事項を広く参照している。日本では認証を取る企業だけが見て、そうでない企業は見ないことが多いと推察されるとのことでした。

- ・ レジリエンス協会は、当面以下の4つの ISO と次項に示す 28000 シリーズの普及・啓発に日本規格協会と協同して取り組む。

①22320；社会セキュリティ：緊急事態管理、指揮、命令のための要求事項。

②22322；社会セキュリティ：警報システム

③22324；社会セキュリティ：カラーコードによる警報要求事項および指針

④22398；社会セキュリティ：訓練および試験の指針

→ これらの社会セキュリティ関係の普及・啓発セミナーを6月27日に開催(1回目)
致します。 於：京都大学東京オフィス(品川) ※詳細が決まり次第ご案内致します。

- ・ ISO28000、28001、28002 の入門セミナーの1回目は2月26日（火）に開催します。

於：自動車会館（千代田区九段南）

セミナー詳細案内、受講申し込みは以下のサイトからどうぞ

http://www.jsa.or.jp/standard/meeting_02.asp?fn=scm.htm

なお、28000 シリーズの次回のセミナーは3月6日（水）にも開催を予定しております。
こちらについては、詳細が決まり次第ご案内させていただきます。

- (2) 「地域継続計画 DCP について ―香川地域継続検討協議会の取り組み紹介―」
磯打千雅子（香川大学危機管理センター 特命准教授）

- 東南海・南海地震を想定した香川地域での、BCP の発展型としての「地域継続計画 DCP」の取り組みについて、詳細なお話をうかがうことができ、他の地域での今後の取り組み方向を考えるにあたって大変参考となる内容でした。

→ 当日の講演資料（要約版）はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

- ・ 香川は有感地震の少ない地域であり、瀬戸内海側です。そして、四国4県の中で唯一飛行場が海辺ではなく山側にあり、海路・陸路とも他県に比して比較的維持・確保が容易である等、四国の防災拠点としていろいろな面で有利な面を有しています。
- ・ H23年6月に「四国東南海・南海地震戦略会議」が設立されましたが、基本的な考え方は「人と人をつなぐ＝地域継続力」を如何に高めるかにあります。すなわち
地域継続力＝Σ個別組織の事業継続力＋組織間の相乗効果（BCP から DCP へ）
であり、直接の利害関係者でない大学が各組織の結びつきを調整する役割として機能していると考えています。
- ・ 地域の継続力を考える上で、特に建設業の存在、役割が大きいそうです。建設業は人と物を持っており、復興の最前線になる重要な業界であるとの認識が必要だということです。
- ・ また、四国の防災対策、復旧・復興推進拠点として重要な香川地域（高松市沿岸部）を対象とした「香川地域継続検討協議会」もあり、その活発な活動内容についての話も聞くことができました。

- (3) 「英国BCIの研究会から」― 田代 邦幸氏（インターリスク総研；当協会監事）

- 昨年11月7,8日の2日間に亘ってロンドンで開催された「BCM World Conference and Exhibition 2012」に参加した田代氏による、“参加によって得たもの、気が付いたところ”の報告がなされました。
 - 参加者は40か国以上から1,000人以上で、今回はアフリカ、中南米からの人が増えた印象があったとのこと。
- 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

- ・演習シナリオの作成（ランチタイム・セッション）に参加した時の感想ですが、シナリオを組み立てていく際の参加者同士の活発な議論は密度の濃いものであり、大変勉強になったそうです。
- ・また、今回のロンドンオリンピックの BCM 関係者によるパネルディスカッションでは、彼らが、何らかの事情で競技場が使えなくなった場合等の想定シナリオをもとに200回以上の演習を行ったという話があり、シナリオのなかには「ロンドンできなくなったら、前の開催地で開催する」というものまで含まれていたとのことでした。いずれにしても、演習の大切さが力説されていたそうです。演習に関しては責任者自身「すごくやった」と言っており重要なポイントの一つであるということのようでした。
- ・BCM＝レジリエンスととらえるケースが多いが、レジリエンスの言葉の意義が変わってきているようで、「なぜレジリエンスは事業継続の将来ではないのか」ということについてのプレゼンテーションもあったそうです。
- ・もう一点、特徴的かつ有効であったのは、その日の最後に BCI の会長からその日一日の、各セッションのサマリーを皆に知らせる場が持たれていたということです。ここでそれぞれのセッションの概要と、そこでどんな議論がなされたかが説明されたそうです。これは、大変いいシステムだと感じたそうです。

→ 英国BCI研究会の関連 Web サイト

<http://www.bcm2012.com/>

<http://www.bcifiles.com/2012programme.pdf>

<http://www.bcm2012.com/presentations/StreamC/1ResilienceIsn'ttheFuture.pdf>

<http://www.bcm2012.com/exposeminarprogramme.pdf>

<http://www.thebci.org/>

http://www.thebci.org/index.php?option=com_content&view=article&id=121&Itemid=267

(4) 「医療関係の事業継続」－ 尊田 京子氏（株式会社東京医療コンサルティング代表取締役）

- 事業継続の観点で見る「消費税アップ」の影響、及びその他薬局、病院の置かれている状況等について、業界を－良く知っている－ならではの観点で、大変興味深いお話を伺う事ができました。

→ 当日の講演資料はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

- ・2011年の医療費は21兆円であり、2015年には39兆円に膨らむ見通しであること。
- ・消費税は、品目・サービスによって、課税、不課税、非課税、免税と分けられている。保険診療は非課税であるが、その他は課税されるので、消費税が上がれば医療機関は持ち出しが多くなることになる。

※ 例えばガソリンスタンド（GS）については、2011年2月の法改正により、40年以上のタンクは2年以内に改修・交換が義務付けられた。その時点で全国3.7万件のGSがあったが、改修費に1,000万円はかかることから、廃業するところが多くなることが予想される。今年だけでも2,000件の廃業が見込まれるとのこと。

- ・ 笹子トンネルの話ではないが、いま日本中の医療機関の至る所で、導入している医療機器類の整備・点検の必要性が生じてきており、あちこちで順番待ちの状態である。こうした状況も医療機関にとって負担を強いることになる。
- ・ また薬局だが、医薬分業率は約67%であり、薬局数は全国5.4万軒である。調剤市場は7.2兆円であり、大きい企業がなく、チェーンの力もまだ強くない。トップ企業で1,420億円程度、ベスト10企業で市場の8%程度を占めるだけということでした。
- ・ 薬局の現在の平均利益率は3.5%であり、消費税が8%に上がるならば、利益が無くなるどころも出てくることになり、やめる薬局がどっと出てくるのではと心配だとのお話でした。
- ・ 前から検討していたが、いよいよレジ協の活動として医療部会（チーム）を立ち上げるので、希望者がいればぜひ参加していただきたいとのこと。どうぞ検討いただき積極的にご参加いただければと思います。

(5) ICT部会の活動について — 深谷 純子氏（深谷レジリエンス研究所：当協会理事）

○ レジリエンス協会のICT部会活動を本格化させるので、メンバーを募ります、というお話がありました。

→ 当日の案内資料はレジリエンス協会 HP 定例会参照

<http://www.resilience-japan.org/nextmeeting/meeting>

- ・ IT部門に特化したBCP構築をテーマとする。
- ・ IT；BCP構築は、通常のBCPとは異なる観点で検討することも必要であり、ビジネス復旧要件に沿ったIT-BCP対策の実装が進まないという課題もあることから、現実的な対策の検討を進めるポイントをまとめる予定である。
- ・ 月1回程度の定期的な会合、打合せを想定しており、IT新技術のBCP適用研究などにも取り組んでいきたい。
- ・ 活動メンバーとしてIT系の方、BCP系の方、その他興味がある方を募集します。
→ 参加ご希望の方は 深谷純子 sfukaya@fukayaresilience.com まで

【2. 次回定例会開催のご案内】

日時：2013年5月13日（月） 13:20 - 17:00

場所：京都大学 東京オフィス <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office>

東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟27階

参加費用：無料

<プログラム> 今後変更となる場合もあります。ご了承ください。

13:20～14:00 「ISO22320の緊急事態管理」 林 春男氏（京都大学防災研教授）

14:00～14:40 「復興力のある静岡を目指して — 地域のレジリエンスを高める —

（休憩）

津富 宏氏（静岡県立大学国際関係学部教授）

- 15:00～15:30 「ISO22324 カラーコード」 尊田 京子氏（株式会社東京医療コンサルティング）
15:30～16:00 「東海圏減災研究コンソーシアムについて」
（休憩） 増田 幸宏氏（豊橋技術大学准教授）
16:20～16:50 「ISO22301 の認証取得支援 – 体験談 –」
小山 隆氏（株式会社ヒルベット・ソリューション）
16:50～17:00 「レジリエンス協会からのお知らせ」 （レジリエンス協会）

【3. 会員募集のお知らせ】

当協会では会員を募集しております。当協会はレジリエンスに関する情報収集、意見交換の場として各業種、団体等の方々にお気軽に参加いただいている会です。レジリエンスにご興味をお持ちの方は、ぜひ一度定例会（無料）にご参加いただき、会の活動状況等を実際にご確認いただければと思っています。

（参考）個人会員の年会費は 10,000 円（消費税込）です。

法人会員（105,000 円）もあります。

入会申し込み方法につきましては下記リンク先のページをご参照ください。

http://www.resilience-japan.org/aboutus/application_form

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

※ 本メールマガジンは次の方々にお送りしています。

- ① 当協会の会員および会員から紹介のあった方。
- ② 当協会開催のイベントに、申込み・参加された方でメールアドレスをお知らせ頂いた方。
- ③ 当協会の関係者と名刺交換された方で、レジリエンスにご関心があると思われる方。

※ 本メールマガジンにお心当たりがない場合、また講読を中止する場合は、以下までメールにてお知らせください。登録を解除いたします。

「info@resilience-japan.org」

※ 本メールマガジンに掲載される記事の著作権は、原則として発行元に帰属します。

引用、転載、雑誌掲載いずれの場合も、本メールマガジンのコンテンツを利用される場合は出典を付記するようお願いいたします。

※ 本メールマガジンに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

発行元：一般社団法人レジリエンス協会

<http://www.resilience-japan.org/>

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝